



平成19年 4月20日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス
代表者 取締役社長 片山博臣
コード番号 8415 東証・大証第1部
問合わせ先 グループ企画部長 米坂 享
(TEL 073 - 426 - 7133)

平成19年3月期 業績予想の修正について

平成18年11月24日の中間決算発表時に公表しました、当社の平成19年3月期連結業績予想に関して、下記のとおり修正いたしますので、お知らせします。

記

1. 平成19年3月期の連結業績予想数値の修正(平成18年4月1日~平成19年3月31日)
(単位:百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回公表予想 (A)	77,000	7,200	5,700
今回修正予想 (B)	80,100	7,800	7,500
増減額 (B) - (A)	+3,100	+600	+1,800
増減率 (%)	+4.0%	+8.3%	+31.6%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	75,529	996	3,297

- () 当社(株式会社紀陽ホールディングス)単体業績の修正はございません。
() 当社は、平成18年2月1日に共同株式移転方式により株式会社紀陽銀行と旧株式会社和歌山銀行の完全親会社として設立されました。このため、前期の当社の連結実績は、存続会社である紀陽銀行については1年間の利益が連結対象となっておりますが、旧和歌山銀行については平成18年2月1日以降のみが連結対象となっております。

2. 修正の理由

当社グループの業績におきましては、その大部分を占める子銀行(紀陽銀行)の影響が大きく、今回の修正も子銀行における業績変動によるものです。

当社グループでは、昨年10月の子銀行間合併(紀陽銀行、旧和歌山銀行)に伴い、大規模な店舗統廃合、人員の配置転換などを行い、また、金融機能強化法における公的資金を受け、その資本を基に「攻めの経営」へと大きく舵を切りました。

この結果、約半年間ではありますが、紀陽銀行の預金・貸出金残高など業容が大きく伸びており、今回の修正の要因となっております。

(子銀行単体諸計数等の見込み、単位：億円、%)

	18年9月末 (2行合算)	19年3月末	増減
貸出金残高	20,127	21,114	+ 987
預金等残高	29,241	30,935	+ 1,694
預かり資産残高	3,119	3,448	+ 329
不良債権比率(注1)	7.49%	6.2%程度	――
自己資本比率(注2)	9.93%	11%台前半	――
その他有価証券評価損益	3	65	+ 68

(注1) 金融再生法ベースの不良債権比率です。

(注2) 紀陽ホールディングス連結の自己資本比率です。

以上のような業績の伸展を受け、経常収益につきましては、貸出金残高が大きく伸びたことにより貸出金利息が計画を上回り、また、有価証券関係の運用益確保も順調に推移しましたこと等により、前回公表予想を31億円上回る801億円となる見込みです。

経常利益につきましては、営業地域における景気回復や一部地域での地価上昇等により不良債権処理額が計画を下回る見込みであることに加え、経営統合のシナジー効果と想定していた営業経費削減が計画通りに進みました。しかしながら、将来的な利息収入の確保を目的として、有価証券ポートフォリオの見直しを行いましたことから、前回公表予想を6億円上回る78億円となる見込みです。

さらに、償却債権取立益が計画を上回る見込みであることから、当期純利益は前回公表予想を18億円上回る75億円となる見込みです。

(ご参考、紀陽銀行の平成19年3月期単体業績見込)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	66,000	8,800	8,000
今回予想 (B)	68,700	9,500	9,300
増減額 (B) - (A)	+ 2,700	+ 700	+ 1,300
増減率 (%)	+ 4.1%	+ 8.0%	+ 16.3%
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	68,662	1,873	5,130

3. 配当予想について

配当につきましては、既に公表しております予想の変更はございません。

(ご参考)	普通株式	2円50銭
	第一種優先株式	14円00銭
	第2回第一種優先株式	0円10銭
	第3回第一種優先株式	0円10銭
	第4回第一種優先株式	5円00銭
	第二種優先株式	10円00銭
	第三種優先株式	6円70銭

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上